

第3期羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略掲載事業 令和7年度事業検証結果一覧表

○検証方法 羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略推進会議(外部有識者)による検証(検証期間:令和8年6月8日～7月3日)

※評価の判断困難として「評価」欄の合計が100%にならない場合あり。

No	基本 目標	施策・事業名	事業内容	R7事業費 (円)	重要業績評価指標(KPI)				評価		外部有識者による評価等
					指標	指標値	実績値		有効的 である	有効的 と言えない	
							R7	達成率			
1	1	創業者、第二創業者の支援	・空き店舗情報のデータベース化と情報発信 ・町民の需要に応じた起業者の誘致 ・店舗改修、設備導入及び創業、第二創業に係る支援(企業振興促進補助事業) ・チャレンジショップの開設	199,413	創業・第二 創業取組件 数(R7～ R11計)	5件	3件	60%	100%	0%	空き店舗の有効活用や創業支援は今後も重要な取組であり、引き続き関係者への周知強化を図りながら推進することが望まれる。
2	1	新商品の開発と販路拡大支援	・地場産品情報の都市圏への発信とマッチングの推進 ・商品開発に係る支援(企業振興促進補助事業) ・農商工連携による商品開発	100,000	新商品の開 発件数(R7 ～R11計)	3件	1件	33%	100%	0%	補助制度の認知度を高める取組をさらに進めることで、事業者の主体的な取組を一層支援することが期待される。
3	1	起業・経営支援	・ワンストップ相談窓口の開設、事業承継マッチングの相談 ・定期的な起業セミナー等の開催 ・起業を応援するための情報発信	0	起業相談件 数(R7～ R11計)	5件	4件	80%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。引き続き商工会等と連携した相談体制の継続が望まれる。
4	1	6次産業化の推進	・新技術(設備)の導入等による地場産品のブランド化 ・地産地消や産業間連携の推進支援	1,518,000	6次産業化 取組件数 (R7～R11 計)	3件	1件	33%	86%	14%	概ね有効と評価された。取組件数の確保に向け、補助金の活用周知や相談体制の充実が課題である。
5	1	1次産業後継者及び新規就業者等の育成	・農業体験実習生、新規就農研修生の受入れ及び新規就農受入体制の整備 ・農地取得等に係る支援(オロロン地区農業担い手確保対策協議会事業) ・資機材の整備等に係る支援(漁業担い手支援事業)	2,210,000	農水産業に おける後継 者及び新規 就業者 (R7～R11 計)	20人	4人	20%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。担い手の定着・確保に向けた継続的な支援が望まれる。

第3期羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略登載事業 令和7年度事業検証結果一覧表

○検証方法 羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略推進会議(外部有識者)による検証(検証期間:令和8年6月8日～7月3日)

※評価の判断困難として「評価」欄の合計が100%にならない場合あり。

No	基本 目標	施策・事業名	事業内容	R7事業費 (円)	重要業績評価指標(KPI)				評価		外部有識者による評価等
					指標	指標値	実績値		有効的 である	有効的 と言えない	
							R7	達成率			
6	1	外国人育成就労受入企業の支援	・外国人育成就労受入れに係る支援(外国人育成就労受入支援事業) ・外国人育成就労受入れに係る支援(外国人技能実習生受入支援事業)	4,200,000	育成就労受入件数(R7～R11計)	15人	14人	93%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。労働力不足の解消に寄与しており、受入環境の充実が期待される。
7	1	企業誘致及び異業種間連携	・工場等の立地に係る意向調査 ・工場立地に係る支援(企業振興促進事業) ・民間企業や各種学校等との連携による新たな雇用の創出 ・サテライトオフィス、コワーキングスペースの整備及びワーケーション事業の新規・拡充検討	200,000,000	誘致する企業等の数(R7～R11計)	1件	2件	200%	100%	0%	目標を上回る企業誘致の実績があり、非常に有効な取組であったと高く評価された。
8	1	雇用機会の拡充	・常用パート及び新規雇用に係る支援の継続と支援対象者(障がい者)の拡充(雇用促進助成事業)	5,280,000	新規雇用拡充数(R7～R11補助決定者数)	25人	11人	44%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。雇用機会の拡大・定住促進に向けた継続的な支援が望まれる。
9	2	既存資源の活用	・公共施設等解体跡地の宅地としての売却 ・空き家対策計画の推進(空き家バンクの運営) ・民間賃貸住宅情報の提供	3,206,000	空き家利用戸数(R7～R11計)	30戸	16戸	53%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。空き家対策と未利用資産の活用の両面で着実な推進が望まれる。
10	2	移住定住の促進	・移住相談、移住フェア等への出展をはじめとしたPR活動の実施	2,055,456	移住相談件数(R7～R11各数値)	10件	4件	40%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。移住フェアやPR活動を通じた継続的な情報発信が期待される。

第3期羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略登載事業 令和7年度事業検証結果一覧表

○検証方法 羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略推進会議(外部有識者)による検証(検証期間:令和8年6月8日～7月3日)

※評価の判断困難として「評価」欄の合計が100%にならない場合あり。

No	基本 目標	施策・事業名	事業内容	R7事業費 (円)	重要業績評価指標(KPI)				評価		外部有識者による評価等
					指標	指標値	実績値		有効的 である	有効的 と言えない	
							R7	達成率			
11	2	魅力ある地域の創出	・観光施設(自然公園(天売島・焼尻島)、道の駅(はぼろ温泉、パラ園))等の整備と適正管理 ・地場産品や観光資源を活用した観光交流イベントの実施 ・日本唯一の海鳥専門施設「北海道海鳥センター」を核とした自然環境に特化した研究事業等の実施	114,964,729	観光客入込 数(R11数 値)	180,000人	193,759人	108%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。観光資源を活かしたイベント等の継続的な実施が望まれる。
12	2	関係人口の創出・拡大	・個人版、企業版ふるさと納税を通じた羽幌町ファンの獲得 ・SNSなど多様な媒体を使った情報発信、ポータルサイトの充実	133,496,682	ふるさと納 税寄付額 (R11数値)	500,000千円	262,420千円	52%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。多様な媒体を活用した羽幌町ファンの獲得が期待される。
13	2	シティプロモーションによる 羽幌の魅力向上	・SNSなど多様な媒体を使った情報発信、ホームページの充実 ・広域による都市圏及び他地域との交流事業の推進	12,070,816	LINEアカ ウント登録 件数(R11 数値)	2,000件	1,737件	87%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。SNS等を活用した情報発信の一層の強化が望まれる。
14	2	若者の定住・UIJターンの促 進、地域への定住・定着を 図る取組	・羽幌町奨学金などを利用して町内で就職、居住した方への奨学金返還金の一部補助 ・国、北海道と連携し、東京圏から移住した方に支援金を交付 ・都市圏における広告宣伝の推進、SNSなど多様な媒体を使った情報発信	1,192,000	町外から移 住し、町内 事業所等に 就職した人 数 (R7～R11 各数値)	2件	3件	150%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。UIJターンによる移住定住・就業者の確保に向けた継続が望まれる。
15	2	地域おこし協力隊制度の活用	・都市地域から本町に必要な新たな人材の受入れ、募集事業の推進	7,161,962					100%	0%	KPIIには反映されていないものの、令和8年度当初に2名の採用があり、人材確保に一定の効果があったと評価される。

第3期羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略登載事業 令和7年度事業検証結果一覧表

○検証方法 羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略推進会議(外部有識者)による検証(検証期間:令和8年6月8日～7月3日)

※評価の判断困難として「評価」欄の合計が100%にならない場合あり。

No	基本 目標	施策・事業名	事業内容	R7事業費 (円)	重要業績評価指標(KPI)				評価		外部有識者による評価等
					指標	指標値	実績値		有効的 である	有効的 と言えない	
							R7	達成率			
16	3	出産までの支援	・妊娠(不妊治療含む)、出産に係る費用及び精神的支援 ・出産祝い品の贈呈	2,091,752	合計特殊出生率(R11数値)	1.66%	1.12%	45%	100%	0%	人口減少下においては実績数値の低迷をもって評価を下げるべきではなく、実績を上げたこと自体が評価に値する。
17	3	子育て環境の充実	・子育て世代の誰もが集いやすい環境の整備 ・相談(発育、育児等)及び保育機能等(保育環境、遊びの場の提供等)の充実 ・子ども達に係る医療費の負担軽減 ・SNSによる検診情報、相談等に関する情報発信	175,898,536	未就学児施設(サービス)利用率(R11数値)	80%	91%	53%	100%	0%	同様に、実績を上げたこと自体が評価に値する。子育て環境の整備が着実に進められており、継続実施が望まれる。
18	4	地元高校への進学者確保	・高等学校の魅力化支援 ・高等学校進学に係る経済的支援 ・奨学金制度の拡充 ・道内外中学校等に向けた宣伝PR	18,836,742	町内中学生の町内高校への進学率(R11数値)	80%	68%	80%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。地元高校と連携した魅力向上とPR活動の継続が望まれる。
19	4	町内義務教育校における教育DXの推進	・1人1台端末の更新 ・デジタル教科書の利活用	5,120,258	デジタル教科書の利用率(R11数値)	100%	100%	100%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。教育DXの推進は必須であり、継続的な環境整備が期待される。
20	4	児童生徒の学ぶ機会の充実	・子ども自然教室事業	329,061	自然教室平均参加率(R11数値)	65%	60%	83%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。郷土愛を育む体験学習の継続的な提供が望まれる。

第3期羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略掲載事業 令和7年度事業検証結果一覧表

○検証方法 羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略推進会議(外部有識者)による検証(検証期間:令和8年6月8日～7月3日)

※評価の判断困難として「評価」欄の合計が100%にならない場合あり。

No	基本 目標	施策・事業名	事業内容	R7事業費 (円)	重要業績評価指標(KPI)				評価		外部有識者による評価等
					指標	指標値	実績値		有効的 である	有効的 と言えな い	
							R7	達成率			
21	4	人づくり事業	・研修事業等に係る支援(人づくり事業) ・地域医療に従事する看護師等の育成(助産師・看護師確保 対策事業) ・保育士等の人材確保及び充実(保育士等修学資金貸付事 業)	3,290,000	補助決定件 数(地域活 動)(R7～ R11計)	50件	12件	24%	100%	0%	人口減少下においては実績を上げたこと自体を評価すべきであり、引き続き多様な人材育成 への支援が期待される。
					貸付決定件 数(医療従 事)(R7～ R11計)	10件	3件	30%			
					補助決定件 数(子育て 人材)(R7 ～R11計)	3件	0件	0%			
22	4	介護向け人材の育成	・介護知識向上のための研修会等の開催、補助支援 ・介護職員の給与等の底上げの実施	2,150,000	補助決定件 数(R7～ R11計)	10件	10件	50%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。研修補助等を通じた介護人材の育成・確保の継続が望まれる。
23	4	高齢者向け生きがい対策	・老人クラブ活動事業	909,070	老人クラブ 組織数 (R11数値)	4団体	4団体	100%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。高齢者の居場所や活躍の場の確保に向けた継続的な支援が望まれる。
24	4	障がい者及び高齢者等への 支援	・福祉ハイヤー料金助成事業	10,324,310	対象者利用 率(R7～ R11平均)	70%	49%	70%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。外出機会の確保に資する事業であり、効果的な運営の検討が望まれる。

第3期羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略登載事業 令和7年度事業検証結果一覧表

○検証方法 羽幌町まち・ひと・しごと総合戦略推進会議(外部有識者)による検証(検証期間:令和8年6月8日～7月3日)

※評価の判断困難として「評価」欄の合計が100%にならない場合あり。

No	基本 目標	施策・事業名	事業内容	R7事業費 (円)	重要業績評価指標(KPI)				評価		外部有識者による評価等
					指標	指標値	実績値		有効的 である	有効的 と言えない	
							R7	達成率			
25	4	防災DXの推進	・WEB版ハザードマップ、防災infoはぼろの利用促進 ・災害対応におけるドローンの導入・活用検討	24,018,780	ハザード マップ訪問 数(R11数 値)	300アクセス	290アクセス	97%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。WEBハザードマップやドローン活用など、防災DXの推進が期待される。
26	4	行政手続きオンライン化の 推進	・マイナポータル、WEBフォーム等を活用した各種行政手続 きのオンライン化を推進	765,600	オンライン 化対応手続 き数(R11 数値)	35業務	16業務	46%	100%	0%	有効的であるとの評価を得た。住民の利便性向上に向け、オンライン対応手続きの拡充が望まれる。

※評価手法に関する今後の課題
KPIの指標値は計画策定時の予想値であることから、達成率のみで有効性を判断するのではなく、関係者への周知状況や取組のプロセスも重視すべきとの意見が外部有識者から寄せられた。これを踏まえ、定量・定性の画面を組み合わせた評価手法について、次回評価検証時に向け、検討を進める。